

第10回eモニターアンケート 「女性の再就職について」

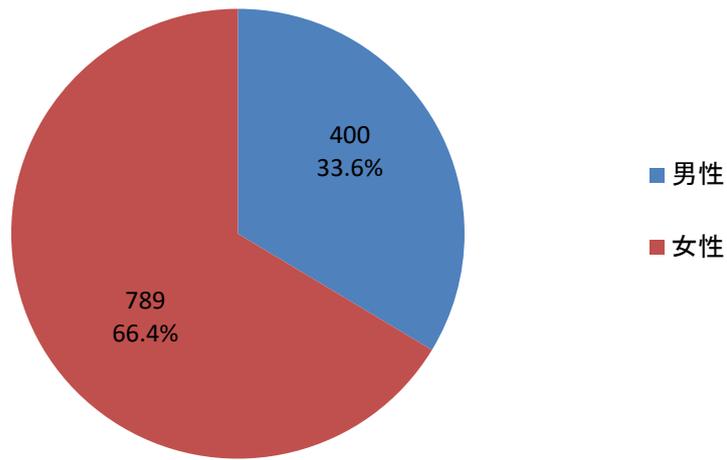
実施期間
回答数

令和4年1月18日 ~
1189 人

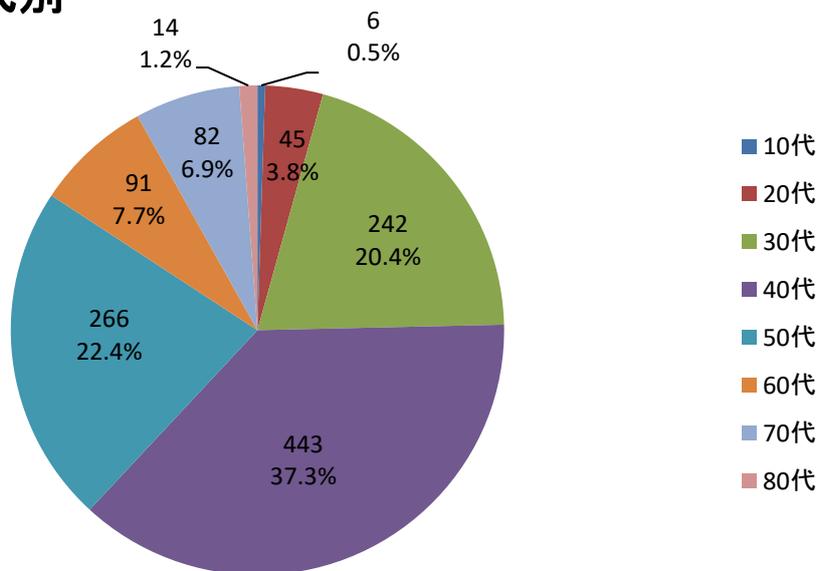
令和4年1月25日

※単位は全て、円グラフは人（割合）、棒グラフは人

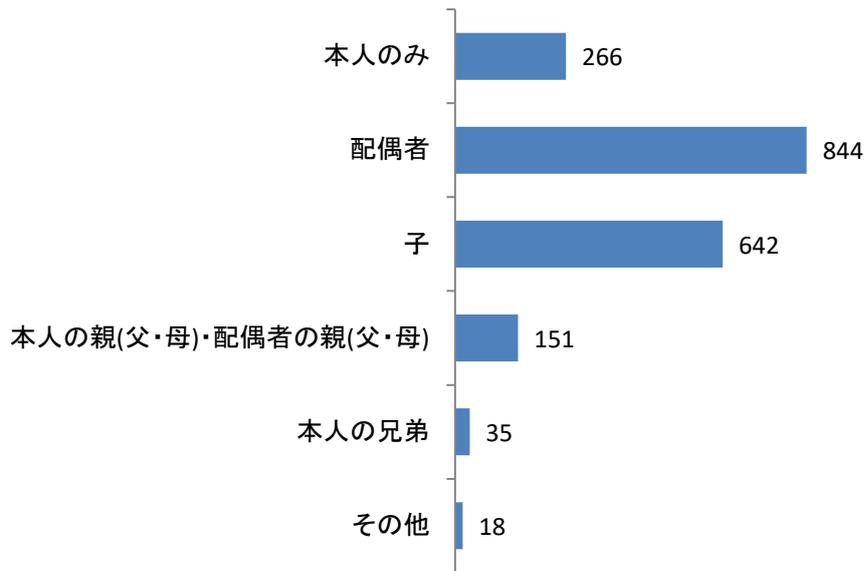
性別



世代別



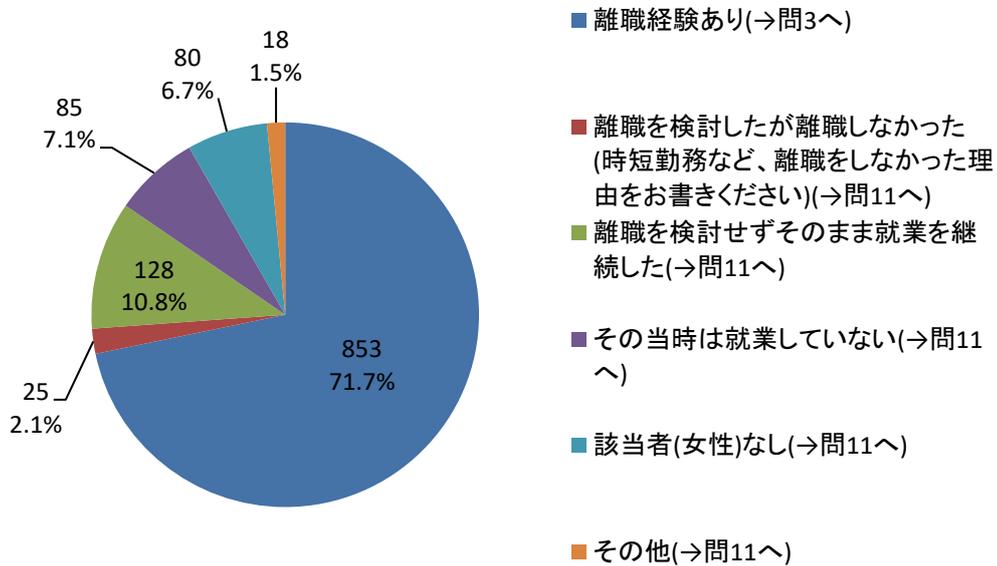
問1: 女性の家族の続柄(複数回答)



【その他の主な回答】

- ・ 子の妻
- ・ 妻の妹
- ・ 孫
- ・ 祖母
- ・ 該当者がいない

問2: 女性の家族の結婚・出産・育児・介護等による離職経験



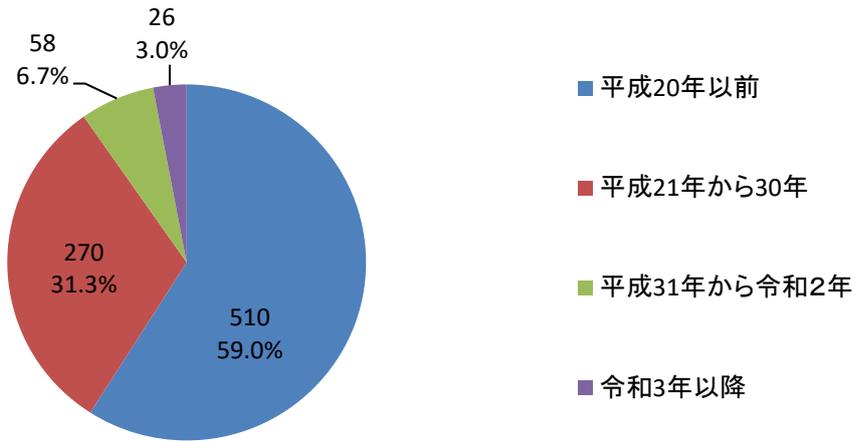
【離職しなかった理由】

- ・ パートに変更
- ・ 生活するため
- ・ 自営業
- ・ 家族の協力があつた
- ・ 産休、時短勤務を利用
- ・ 在宅

【その他の主な回答】

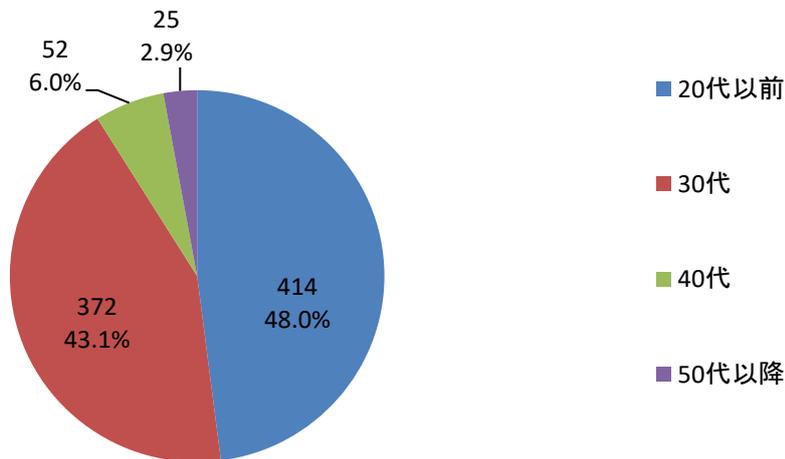
- ・ 離職経験無し
- ・ 設問以外の理由で離職した(病気・不妊治療等)
- ・ 一度も就職した事がない
- ・ 現在検討中

問3: 離職した時期(直近の事例)



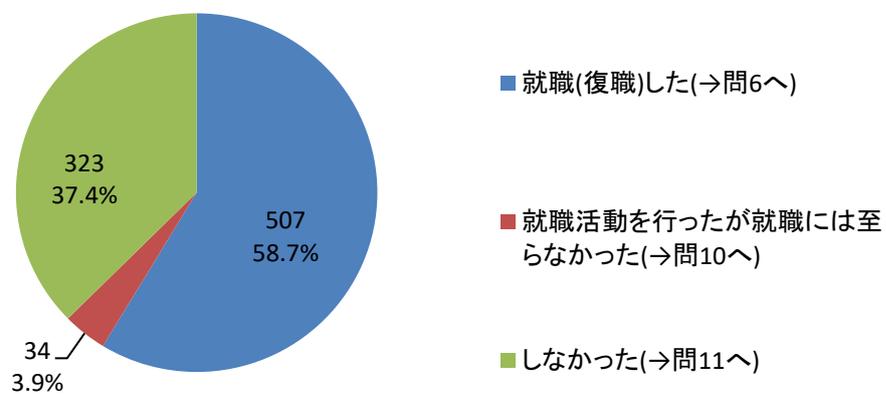
※問2で「離職経験あり」と回答した人

問4: 離職した年齢(直近の事例)



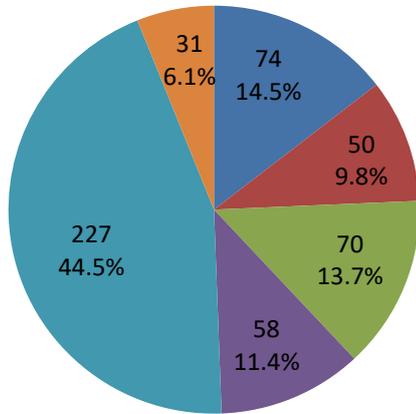
※問2で「離職経験あり」と回答した人

問5: 離職後の復職状況



※問2で「離職経験あり」と回答した人

問6:就職(復職)した方の就労先



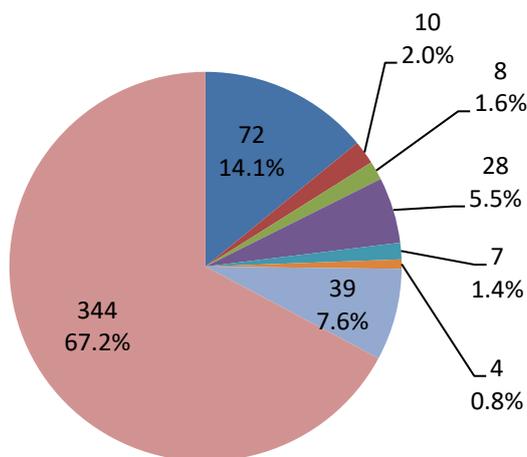
- 離職した会社に就職(復職)(雇用条件の変更がなく時短取得の場合はこちらを選択してください)
- 離職した会社に雇用形態を変えて就職(正社員→パート等)
- 離職した会社と同業種・別職種 of 会社に就職
- 離職した会社と別業種・同職種の会社に就職
- 離職した会社と別業種・別職種 of 会社に就職
- その他

※問5で「就職(復職)した」と回答した人

【主なその他意見】

- ・離職した会社と同業種・同職種の会社に就職
- ・派遣社員で幾つかの会社に勤めた為、業種・職種は様々
- ・会社ではなく、学校勤務
- ・離職した会社と別業種・別職種 of 会社にパートで就職
- ・近所の個人のお店でアルバイト
- ・自営業
- ・シルバー人材センター

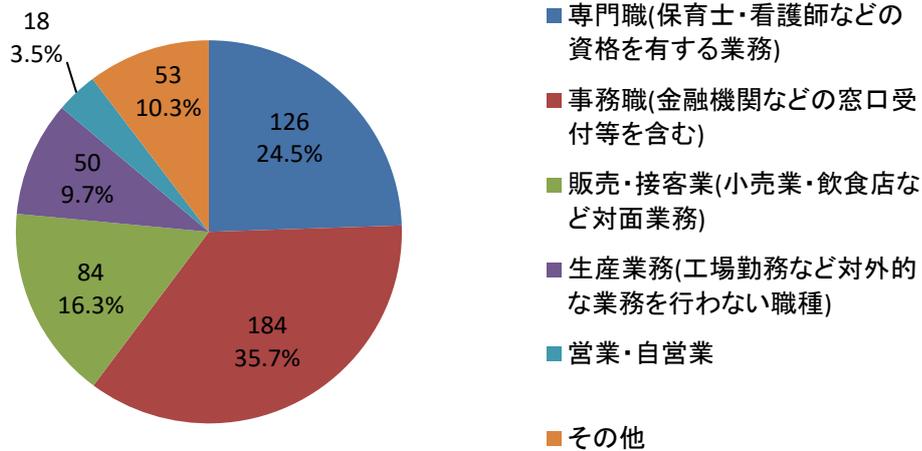
問7:就職(復職)した方の雇用形態



- 正社員でフルタイム勤務(曜日・時間固定)
- 正社員でフルタイム勤務(フレックス制)
- 正社員でフルタイム勤務(シフト制)
- 正社員で短時間勤務(曜日・時間固定)
- 正社員で短時間勤務(フレックス制)
- 正社員で短時間勤務(シフト制)
- 契約社員・派遣社員(就労時間をお書きください)
- パート・アルバイト勤務等

※問5で「就職(復職)した」と回答した人

問8: 就職(復職)した方の仕事内容

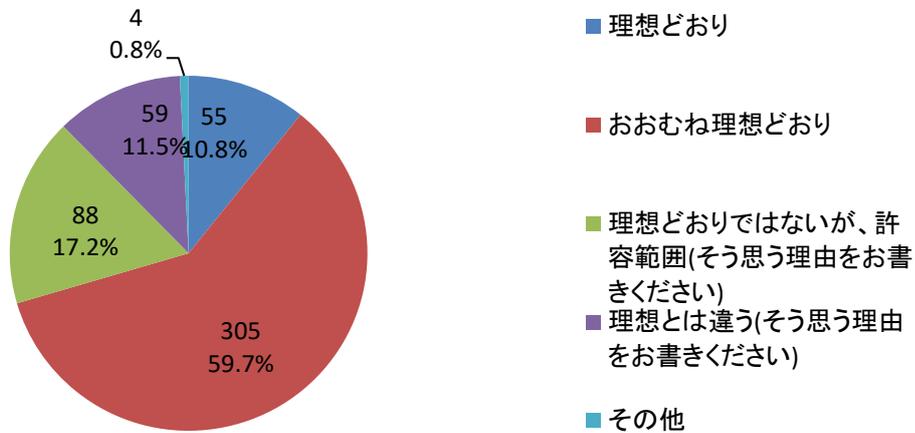


※問5で「就職(復職)した」と回答した人

【主なその他意見】

- ・運輸、通信業
- ・医療従事者(資格不要)
- ・教員
- ・歯科助手
- ・開発
- ・検査
- ・ピアノ講師
- ・農業
- ・清掃業
- ・児童支援
- ・福祉関係
- ・教育関係
- ・大学講師
- ・技術職

問9: 理想どおりの働き方ができているか



※問5で「就職(復職)した」と回答した人

【理想どおりではないが、許容範囲と思う理由】

- ・正社員を希望しているが、パート・アルバイトのため
- ・育児との両立は難しいこともあるので
- ・希望する職種ではないが条件が良かったため就職した
- ・残業が多い
- ・給与は安い、休みやすい
- ・勤務時間等、融通がききにくい

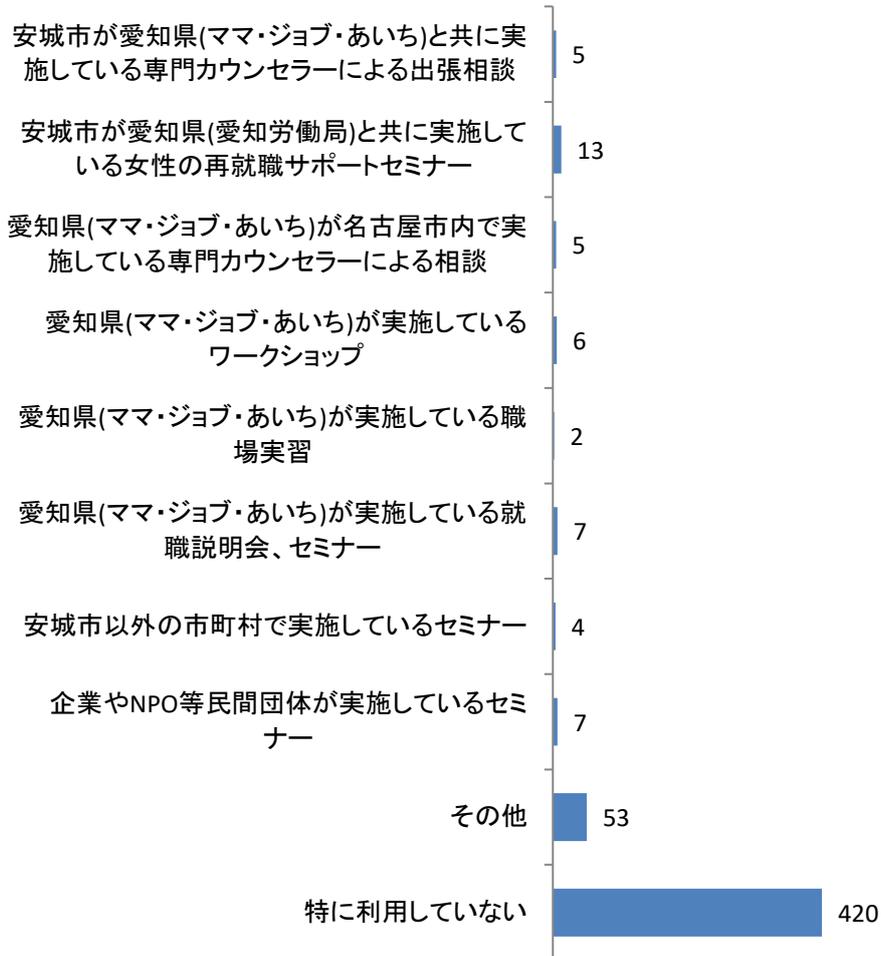
【理想とは違う理由】

- ・正社員やフルタイムで働きたい
- ・雇用の柔軟性の無さ
- ・やりたい仕事ではない
- ・給与が低い
- ・時短勤務が認められなかった
- ・離職前の経歴を生かせなかった
- ・育児との両立は難しかった

【主なその他の意見】

- ・復職した時は理想通りだった。今は違う。
- ・復職予定でまだ休職中

問10: 離職中に利用したサービス(複数回答)



【主なその他意見】

- ・ハローワーク
- ・インターネットの求職サイトに登録
- ・新聞の求人広告
- ・ハローワークから職業訓練校に入学した
- ・派遣会社
- ・一般の就職支援会社

問12：女性の再就職にはどんな支援が必要だと思いますか。ご意見をお聞かせください。

保育園の確保。会社の理解と在宅勤務等の仕組み構築。

家族の理解と家事分担。

未就学児の企業内保育園を設置し、安心して就業できる環境が必要。

子供が病気になったときや急に休むことになったときの周りの人の理解。

資格、キャリア、健康、笑顔、就職先の理解、情報提供など。

核家族世帯が多いので 学校が終わった後や 夏休み中等の 子どもの面倒を見てもらえる施設。

需要のある職種に就労する為、リスキリングのセミナーや通信教育の開催。

現在、子育てが一段落して再就職活動中です。年齢が40代半ばになると、パート登用はあるのですが、正社員登用してもらえる職場がなかなかありません。ミドルエイジの正社員登用をサポート(紹介)して頂ける組織があるといいのですが。

子育て支援という観点から社会的にみて出産、育児をする女性への支援は注目されているように思うが、その他の理由(介護や自身、家族の病気など)で離職せざるを得ない人への支援は、まだまだ行き届いていない気がして、本音を言えば不公平だなと感じる時がある。

現状で良いです。

子育て支援。職場での理解。

子どもを託児しながらの就職活動。

突然の発熱等軽度の病気の子供を預かってくれる施設の充実。

保育園に預けられることと、配偶者の理解・協力が不可欠だと思います。

家庭を大事にしたい。

心配な点を気軽にいつでも聞くことができる窓口があると良いと思います。実際に働いているお母さんたちの話を聞く機会があると、子どもを育てながら働くイメージができるので良いと思います。セミナーの受講だと、ハードルが上がるので、事前に働くお母さんたちへの質問を募集して、質問に答えるページや動画があるといつでも見ることができると思います。

夫の理解。社会の理解。病児保育の充実。

また、再就職しなくてもどうにかなるような、専業主婦への理解や制度も必要だと思う。

支援という他力本願にならずとも、本気で仕事を探している人(男女問わず)であれば、自力で仕事を見つけられると思う。

幅広い就職先情報の提供、就活中の託児、資格取得内容、利点等の情報提供。

家族がいるなかでも働きやすい環境がある会社。

例えば、仕事を持ち帰り、家族が就寝した後に数時間在宅勤務ができる等…

子供が病気の時のサポート機関。

学童の利用条件の緩和(16時までの勤務でないと利用できないのが低学年に現実的でないです)

1、まず意欲とそれなりの能力が有る事、事務作業ならパソコンのエクセル、ワード等は必須と思います。

2、人当たりが良い事です、無理やりに作らず、自然が良いと思います。

私は今年から町内会の役員をやっていますが、1、2、はどこでも要求される項目ですので、支援するなら1のパソコンの初歩学習会かな？

男女問わずですが、家族の育児介護の可能性は誰にでもある事なので、育児介護が発生した際の会社側のマネジメント(抜ける人のせいにするのではなく、抜ける事に対する対処)を助けるような支援があると良いなと思います。

あとは、子持ちで就活する際の保育支援(保育園、ファミサポ等)の壁が低くなると就活しやすくなるのかなと思います。

託児所の設置。再就職セミナーの開催。資格取得などの支援。

・子どもを預けられる施設の充実

・病気の子を預けられる施設の充実

・子育て世代に対する就業先の理解

職業紹介、資格取得のサポートなど。

支援も必要かもしれないが、一番大事なのは男性や上司の理解。

ママ自身が働く事で家事や育児がおろそかになる事への罪悪感をなくすこと。ママの心の支援。

完璧でなくても大丈夫という自己肯定感を満たすこと。

パソコン等のスキルアップ。英語等の語学力向上。対人関係・関係構築能力向上。

家庭と仕事の両立アイデア。

企業展みたいな再就職セミナー。

・時短勤務や子供の看護のための早退や欠勤への理解

・不安感の払拭

結婚を機に離職して専業主婦になると、ラクさを知ってしまい再就職しないことがある。

働く楽しさ、大切さを知らせる支援があるとよい。

<ul style="list-style-type: none"> ・基礎の労働法 ・子育てママの特有な労働法権利(例えば小学校以前時短OK、産休育休の途中も有休が増える、小学校前まで残業や土日祝日出勤を断ってもOK、事業主あるいは社長が一方的にグレーゾーンで済ませようとする場合労働局に相談して対応策を教える又は訴えることもできる) など ・子育てママの基本給が低い ・ボーナスで評価が落ちる ・復帰後の暗黙の圧力 <p>大手企業はほどほど女性の権利が優遇され守られている認識はありますが、中小企業個人事業所では子育てママがとても不利になっている。</p> <p>子育てママが自分の権利を一つ一つ要求しなくても、守ってこれる社会になって欲しいです。</p> <p>子育てママの権利を詳しく、例を入れての説明が欲しいです。</p>
<p>現状、周囲における女性の復職や再就職への忌憚ない意見をまとめると、家計を鑑み金銭的にやむを得ず復職。再就職(以下「復職」)しているケースが散見される。こうした復職は女性本人のモチベーションも低く企業にとっても有用な人材となりにくいことから、企業サイドとしても復職支援に二の足を踏んでしまうということが考えられる。</p> <p>よって本当に復職したい、仕事へのモチベーションが高い女性のみが復職し、長く会社に貢献できることを担保するために、(逆説的ではあるが)結婚・出産・育児・介護等で離職した女性が復職をしてもしなくても金銭的に困らないような助成金を創設するのはいかがだろうか。例えば離職後に就職活動を行い、かつ就職出来なかった人間への給付金や、育児休暇を取得後、子が3歳になるまでに復職していない人間への一時金など、現状福祉の網駆られてあぶれている人間を守る方法は色々考えられる。</p> <p>女性の再就職というどうしても再就職率という数字だけが一人歩きしてしまう中、再就職した人間の定着率の向上という形での支援は、市町村単位での独自性も高められ、安城市を企業にとっても労働企業内や市の施設で子どもを安心して預けられる施設の充実。65歳以上の働ける方との協業出来る場所の提供などの充実。</p>
<p>男性の意識を変える教育、昭和のおじさんのように家のことは女性がやって当たり前という概念を変える。</p>
<p>再就職セミナーはもちろん、再就職を斡旋してくれる場が欲しい。子育てや仕事の中、次の職を探すのはなかなか難しいため。</p>
<p>長期休みを含めた子供の預け場所。配偶者の労働時間短縮を伴う家事育児参加。時短労働への周囲の理解と協力。在宅勤務できる職の増加。</p>
<p>周りの理解。いじめられました。</p> <p>同じ時給だから同じようにしなさい。と言われました。</p>
<p>スキルを明確化する資格取得支援とフレックスタイム就業体制。</p>
<p>仕事中でも育児、介護などをフォローしてくれる施設、スタッフの充実。</p> <p>休日や夜間でも預けられる施設が少ないし、受け入れてくれるところがない。</p> <p>お金を出せばあるかもしれないが、そのような余裕はない。</p>
<p>地域での見守り。</p>
<p>特に支援はいらないと思う。</p>
<p>未婚の若者や、子どものない家庭に負担がいくことのないような配慮が必要だと考える。</p> <p>子どもがないのを理由に仕事の負担が増えると不満の原因になり、産後の復帰を歓迎できない雰囲気生まれる。</p> <p>産休育休の制度を導入するだけでなく、子どもの有無に関わらない平等な職場環境を整えることが必要だと考える。</p>
<p>社会が変わらなるとなかなか女性の再就職は難しいと思います。難しい問題ですね。</p>
<p>病気にかかりやすくなるための栄養講座。</p> <p>病気の子供を預かってくれるサービス。(子供が病気がちだと、休まなくてはいけなくなるため)</p>
<p>社内に託児所が有る会社が増えると良い</p>
<p>ブランクが長いと、なかなか一歩が踏み出しにくくなります。</p> <p>パソコンなど再就職に役立つ講座を身近な場所で受講できると嬉しいです。</p> <p>どのような職場があるのか幅広く知れるような機会があると、自分が興味なかった分野でも働きたいと思える職場が見つかるかもしれません。</p>
<p>配偶者のサポートを助ける支援。</p>
<p>家族の協力(祖父母や父親の意識改革の必要な人への啓蒙)。</p> <p>職場が人員配置にゆとりがもてるような支援(補助制度や人材派遣制度)。</p> <p>資格取得支援制度。</p> <p>ゆとりある働き方改革をより当たり前の世の中に!</p>
<p>家族の理解と協力。保育園や介護施設への円滑な入園。</p>
<p>資格取得支援制度。企業とのマッチング。</p>

<p>働き方には様々な方法があるが、家庭、子育てと両立するためには、在宅でフレキシブルに働ける職場が多くなると良いと思う。子供の突然の発熱等で職場へ出勤できなくなると業務に支障をきたすことになる。会社・同僚として協力しなければならないと解っていても、当人の業務を振り分けられると、同僚にも不満が生じるようになる。そのような空気の中では、復職しても良い環境で働けるとは言い難いものがある。このコロナ禍でクローズアップされた在宅ワークではあるが、今後もさらに在宅が多くなれば良いと思います。就労セミナーも大切ですが、企業側に在宅ワークでの業務の進め方セミナーを行っていただきたいと思います。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・働かない女性に対する優遇措置の廃止（税控除、社会保険の扶養） ・男性の育児休暇義務 ・保育園の確保 ・在宅勤務の推進 ・再就職を受け入れる企業への優遇措置
<p>家族の協力。公的機関の就労セミナー。本人の就労意欲、覚悟。 私の場合はずいぶん昔のことですが、子育て中や親の介護等で何度も離職を考えましたが、その度に家族の協力があり続けることができました（まだ産前産後の休暇が6ヶ月の頃のことです）。 今も昔も家族の協力と、本人の意欲は欠かせないものだと思います。ましてや再就職となると今でもハードルは高く、もちろん周りの支援も必要ですが、本人の気持ちのハードルが意外と高いように感じます。 セミナー等で、そのあたりも下げることができると1歩踏み出すことができるのではないでしょう</p>
<p>現在育児休暇中です。2年間休暇取得予定ですが、その後、育児と仕事を両立できるか、不安です。同じような悩みを持つ方や、経験のある方の話が聞けるとありがたいと思います。また、市による、女性の再就職にむけての支援などを知りたいと思います。</p>
<p>子供を安心して預けられる場所。男性の育児への主体性。会社の理解。 現在育休中でこの4月に復職予定ですが、夫婦の両親がともに県外のため、コロナ禍という事もあり頼れない環境でした。幸い私は妊娠前と同じ職場に戻ることが出来そうですが、こんな環境での新たな職探しは無理だろうと思います。 核家族がほとんどの今、夫婦での協力は不可欠であり、また、母親の職場だけではなく、父親の職場の理解も必要だと思います。急な休みや早退などに、母親だけで全て対応するのは無理があります。</p>
<p>障害児が生まれたため、全く復職できない期間が長かった。 障害児の保育園等、預け先の確保が無さすぎで、同じ会社に復職できなく諦めた。 今は、週一回しか働けない。不公平だ！</p>
<p>以前とは比べ物にならないくらい充実しているため、特に必要性はないのでは。 就職活動が自宅でできる方法があればいいと思う。</p>
<p>家族の理解。 能力や技術、資格があっても、雇用してくれる企業があっても、家族の理解と協力がなければ再就職出来ません。家族の理解を深め、協力を得られる支援</p>
<p>安城市主催の女性再就職セミナーに参加したら、NISAやiDeCoなどの資産運用の話や、思っていた講話と違いました。もっと実用的な「就活に利用する媒体(ハロワやとらば一ゆ)の話」や「子どもの年齢に合わせた就職イメージ」などの話が聞きたかったです。また子育て世代ウエルカムな市内企業の就職フェアなどありがたいかと思えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・「106万の壁」「雇用保険や健康保険といった社会保険への加入の境目」等を教えてくれるセミナーの存在。 ・パソコンがあれば就職活動ができる時代なのでパソコンがない人への市の専用パソコンの開放。 ・育児中は短時間労働、子供が病気になった時にすぐ休める会社が必要だが限られている。育児ママが働きやすい会社を増やす奨励施策が必要。
<p>需要と供給のマッチングを包括的に行うことはできないものか。 情報があるだけでは、それを探す場所や時間に制約がある。AI等の活用で最適な求人情報が提供出来れば素晴らしい。</p>
<p>雇用する立場ですが「扶養の範囲内で働きたい」という再就職希望の女性が多いです。 配偶者控除や家族手当を見込んでの事ですが、どうしても補助的な労働になってしまいます。活躍の場も限られてしまいます。 目先の損得ではなくて、社会保障制度全体を見直す時期にきているように感じます。</p>
<p>具体的な就職先を紹介できるようなセミナー。 大学生の就活のように企業の方から直接情報を得られる場。 職務経歴書の書き方や面接指導をしてもらえるセミナー。</p>
<p>男性が受講する家事育児スキル向上セミナーの開催(自主的に申し込んで行くものではなく、小学校の就学説明会で父親が受けるなどのしくみで)。</p>
<p>企業側は育児との両立ができるフレキシブルな就業制度や、職場の協力。 行政は、小学校に進学した途端、保育園と児童クラブとのサポート体制にギャップを感じたため、児童クラブ（特に低学年のうち）の充実を検討すべき。</p>